



## e放送の夜明け データ放送が拓く双方向サービス

放送と通信の融合が着々と進みつつある。「e放送」とも呼ぶ新しい新たな双方向放送サービスが出現するというのだ。本連載では、e放送の全貌と可能性を明らかにしていくこととする。



### アナログのデータ放送と文字放送

今年12月から始まるBSデジタルのデータ放送が注目を集めているが、今回紹介するように、アナログ放送でも放送用電波の隙間を使ったデータ放送がすでに始まっている。似て非なるものに1985年に開始された文字放送があるが、サービスの開始から10年以上経ったにもかかわらず、事業として成功させている者はほとんどいないという状況にある。アナログのデータ放送と文字放送はどこが違うのだろうか。

アナログのデータ放送と文字放送は、放送電波の隙間を使って情報を送るという基本的な仕組みは同じだが、文字放送では伝送路の規格がNHKの開発したハイブリッド方式と決められていただけでなく、伝送路上のアプリケーションまでが郵政省の告示により細かく規定されていた。

一方のアナログのデータ放送は、伝送路の規格が規定されているのみで、アプリケーションに関しては事業者ごとに自主的な仕様を策定できる点が異なる。このため、将来の技術の進展に応じて柔軟に仕様を変更する余地が残されている。また、文字放送では決められた形の文字と図形しか表現できなかったのが、データ放送では動画や音声も含めた多種多様なデータの提供が可能で、画面上のボタンやアイコンをクリックすることで、リンクされているウェブページに飛んでいくことや、電話回線など有線の上り回線を使った双方向のサービスも実現できる。

文字放送で成功している会社がほとんどないという状況にあって、それでも新たにデータ放送を立ち上げた事業者が存在することこそが、デジタル時代の本格的なe放送ビジネスの可能性の大きさを物語っているといえよう。

### TBSの取り組み

TBSは、ベンチャー企業のインフォシティが日本向けに開発したデータ放送規格である「ビットキャスト方式」を採用して、1997年から「データパレード」と銘打ったサービスを開始した。

ビットキャスト方式では、パソコン画面の一部を使って通常のテレビ放送を見ることができ、画面の残りの部分でさまざまな情報を受信できるようになっている。情報画面部分には、最新ニュース、気象情報、テレビ番組などのアイコンが表示されており、クリックするとその情報が表示される。

このページ右上の写真はパソコン上で展開されているデータパレードの一画面だ。HTMLでデータが作成されており、パソコンをインターネットに接続させることで、ウェブページにリンクして、さらに詳しい情報も入手できるようになっている。

データ放送部分については、TBSのホームページの内容を中心に、イベントのPRなどを行うほかに、情報提供者には雑誌、パソコン関係の企業などからも幅広く参加を募っており、毎日新聞社に限らない。

TBSは、ビットキャスト陣営で先陣を切ったことになる。1998年3月からはテレビ向けにEPG(電子番組案内)サービスも開始している。次回以降紹介することになるが、テレビ東京やテレビ朝日はテレビやパソコン向けに別の規格でサービスを行っている。

データ放送を通じて、テレビ局は従来のテレビ視聴者に加えて、新たにパソコンユーザーをも取り込んでいこうとしている。デジタル時代には本格的なe放送が展開されることになる。番組制作の仕方も双方向サービスを活かしたものに変わっていくことになるだろう。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)